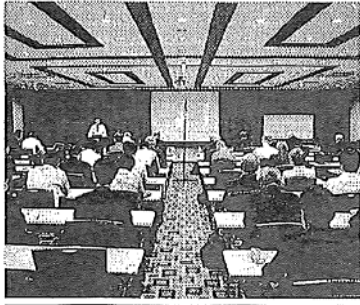


建コン協インフラ70年講演会

天草五橋の意義を発信

国内橋梁技術の原点紹介

建設コンサルタンツ協会（中村哲己会長）は17日、福岡市のTKPガーデンシティ博多新幹線口で、連続講演会「インフラ整備70年講演会」戦後の代表的な100プロジェクト」の第50回となる「離島をつなぐ夢のかけ橋 天草五橋―橋は西から日は東から―」を開いた。写真。戦後の国内橋梁技術の原点といわれ、国内の離島架橋プロジェクトの先駆的モデルとなった天草五橋の意義を発信した。



冒頭、あいさつした田中清一福岡自然環境がある一方で、九州支部長は「天草諸島は、裕交通の便が悪く、発展を阻害されていた。こうした中で天草諸島と本土を橋で結んで発展させたいという強い願いが天草五橋プロジェクトをスタートするきっかけとなった」と語り、続けて講演会の趣旨を説明した。

講演では、山尾敏孝熊本大名誉教授が天草五橋の建設経緯を説明した後、福永靖雄N

EXCO西日本コンサルタンツ社長や矢野一正鹿島土木管

理本部橋梁統括部長、戸塚誠司元熊本県土木部長らが計画概要、施工、完成後の効果・維持管理などを紹介した。

天草五橋が架かる国道266号天草連絡道路は、熊本県宇城市の国道57号五橋人口交差点から上天草市松島町会津の総延長17.4km（このうち橋梁区間は1.8km）の区間で1966年に完成した。山

尾氏は「天草五橋の建設は離島振興法の成立なくしては得なかった」と語り、同法の成立に深く関与し、天草全島民による「島民1人1円献金」運動をはじめとする架橋運動の中心人物となった森國久旧龍ヶ岳町長らを紹介した。

福永氏は、天草五橋の橋梁形式の検討に携わった中島英治元日本道路公団福岡建設局長にインタビューを実施し、その映像を紹介した。中島氏は「外国の橋梁技術を勉強す

ることが私に与えられた一番初めの仕事だった」と語り、当時世界一のプレストレスト・コンクリート（PC）橋を構築したドイツを視察するなど、知識を高めて五橋を計画。1―4号橋はトラス橋、5号橋は周辺の風光明媚（めいび）な美観などを考慮してパイプアーチ橋を選定した。

戸塚氏は、天草五橋開通式の映像や完成後の効果を紹介した。天草五橋の開通により、輸送時間の短縮につながり、漁業・農業・商業が発展し、島民1人当たりの年間所得が上昇し本土との地域格差が縮小した。観光振興にもつながり、天草五橋が主要な観光地になった。さらに「天草五橋で取り入れた技術は本州四国連絡橋プロジェクトで活用され、国内の橋梁技術発展の契機となった」と述べた。

最後に、山尾氏が八代・天草シーライン構想や御所浦島への架橋構想、島原・天草・長島架橋構想などを紹介し「新しい橋・道路の建設プロジェクト」と呼び掛けた。

プロジェクトは非常に大きな意味がある。一大プロジェクトを九州から立ち上げることが重要だ」と呼び掛けた。